

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-143078

(43)Date of publication of application : 23.05.2000

(51)Int.Cl.

B65H 35/07

(21)Application number : 10-374892

(71)Applicant : WAKAMATSU YOSHIHIDE

(22)Date of filing : 10.11.1998

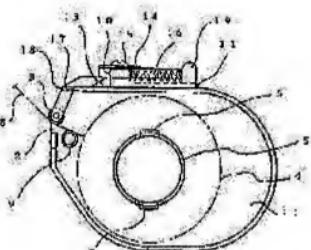
(72)Inventor : WAKAMATSU YOSHIHIDE

(54) TAPE DELIVERY DEVICE WITH CUTTER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To make a tape delivered end holdable with fingertips or to make the fingertips placeable on the upper face of the tape delivered end to press it directly to wound material by cutting an adhesive tape, and protruding the tape delivered end from a case body after cutting.

SOLUTION: When cutting, a cutting edge operating part 19 is pushed to advance a cutting edge 18 and to hold it in a forward protruding position above a guide roller 3, and a case body 1 is tilted to cut a tape delivered part 8. In this way, the tape delivered end from the position of the cutting edge 17 to the guide roller 3 can be protruded from the case body 1 so as to save time to separate the tape delivered end from a wound adhesive tape with the tips of nails and to hold it with the fingertips or bite it with teeth to deliver it. The tape delivered end can be pressed directly to wound material with a thumb and easily cut with the cutting edge 17 when cutting.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-143078

(P2000-143078A)

(43)公開日 平成12年5月23日 (2000.5.23)

(51)Int.Cl.
B 65 H 36/07

試別記号

F I
B 65 H 36/07

チヤート (参考)
H 3 F 062

審査請求 未請求 請求項の数3 書面 (全3頁)

(21)出願番号 特願平10-374992

(71)出願人 S00099821

若松 美秀

大阪府箕面市坊島1丁目10番3号

(22)出願日 平成10年11月10日 (1998.11.10)

(72)発明者 若松 美秀

大阪府箕面市坊島1丁目10番3号

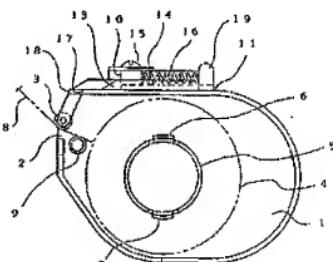
Fターム (参考) SF062 AA12 AB04 BA01 B008 BB10
BC01 BD02 BD05 BE02 BP03
BG05

(54)【発明の名前】 カッター付きテープ端出装置

(57)【要約】

【課題】 この発明は、巻回テープを繰り出しながら該巻回物に巻回し、ケース本体に配備した切断刃でテープ繰り出し部を切断したのち、形成されたテープ縫出端をケース本体から突出させる手段に関するものである。

【解決手段】 ケース本体の前方外周壁に開設し、該開口部の上方端にガイドローラーを配備し、ケース本体の内側に巻回テープを回転自在に支持する中空の軸と、テープ繰り出し部の結合面側を案内する支持ローラーを配備し、ガイドローラー上方の外周壁面上には進退可能な切断刃を配備し、當時は外周部より出した位置にばねで彈力的に保持し、切断時に切断刃の操作部を押して切断刃を前進させ、ガイドローラーの上方でしかも前方に突出した位置に保持し、次にケース本体を傾動させてテープ繰り出し部を切断し、切断により形成されたガードローラーから切断刃までのテープ縫出端がケース本体の外に突出する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 外周壁の前方所定箇所に巻き部を開設し、該巻き部の上方端にガイドローラーを配備し、ケース本体の内側に巻回着テープを回動自在に支持する中空の軸体と、テープ縫り出し部の粘着面側を案内する支持ローラーを配備し、ガイドローラー上方の外周壁上面には外周部から進退可能な切断刃を配備し、當時は外周部より近く位置にばねで弾力的に保持し、切断時に切断刃の操作部を押して切断刃を前進させ、ガイドローラーの上方でしかも前方に突出した位置に保持し、次にケース本体を傾斜させてテープ縫り出し部を切断することを特徴とするカッター付きテープ縫出装置。

【請求項2】 切断刃を支持する切断刃操作体と切断刃を同じ材質で一体化した請求項1記載のカッター付き装置。

【請求項3】 支持ローラーをガイドローラーに並着可逆にばねで保持し當時はテープ縫り出し部を挟持するよう付帯させた請求項1及び請求項2記載のカッター付きテープ縫出装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】〔発明の属する技術分野〕この発明は巻回粘着テープを縫り出しながら被巻回物に巻き回し、巻回終了後に配備した切断刃で端部を切断し、さらに切断後にテープ縫出端をケース本体から突出させて指先で挟持できるように、或いはテープ縫出端の上面に指先を載置してそのまま被巻回物に押圧できるテープ縫出装置に関するものである。

【0002】〔従来の技術〕電線の導体部に絶縁テープを巻回する場合は、巻芯の裏面に指先を挿入して巻回部に付着したテープ縫出端を、もう一方の片手の爪先で剥離して指先で挟持するかあるいは巻芯で擦んで若干干縫り出し、テープを持つ手の棘指をテープ縫出端に載置してそのまま被巻回物に押圧し、さらに被巻回部に沿って巻回テープを巻回させて巻回し、巻回終了後は棘指をテープ縫出端の上面に載置し、さらに下方に押す下げて引き裂くのが一般的である。作業用のテープ縫出装置としては幅広作業で使用されるものが便宜を供しているが、この構造は常に切断刃が露呈しているため巻回作業では危険であり、さらに電気配線作業での使用は危険の懼畏を感じる恐れがある。

【0003】〔発明が解決しようとする課題〕巻回作業に適したテープ縫出装置は未だ開発されておらず、各アーメーカーは使用者の強い要望で容易に引き裂くことのできるテープの開発に注力している現状であり、本発明は巻回作業に適したテープ縫出装置の提供であり、使用者の潜在的な強い要望に答えるために発明されたものである。

【0004】〔課題を解決するための手段〕外周壁の前

部を回動自在に支持する中空の軸体と、テープ縫り出し部の粘着面側を案内する支持ローラーを配備し、ガイドローラー上方の外周壁上面には外周部から進退可能な切断刃を配備し、當時は外周部より近く位置にはねで弾力的に保持し、切断時に切断刃の操作部を押して切断刃を前進させ、ガイドローラーの上方でしかも前方に突出した位置に保持し、次にケース本体を傾斜させてテープ縫り出し部を切断する。

【0005】〔作用〕切断時の切断刃の位置からガイドローラー迄のテープ縫出端をケース本体から突出させるので、巻回粘着テープからテープ縫出端を爪先で握離して指先で挟持したり歯で噛んで若干噛り出す手間を省き、テープ縫出端を親指で直接に彼巻回物に押正でき、しかも切断時は配備した切断刃で容易に切断することができる。

【0006】〔発明の実施の形態〕以下、実施例の図により本発明を詳しく述べる。(図1)は本発明の巻回時の側面図で、(図2)は(図1)の正面図で、さらに(図3)は(図1)の平面図を示す。(図1)、(図2)、及び(図3)において、ケース本体1の前方外周部に巻き部2を開設し、該巻き部2の上方端にガイドローラー3を配備し、ケース本体1の内側に巻回粘着テープ4を回動自在に支持する中空の軸体5を配備し、該軸体5の先端部には停止爪6と停止爪7を対向する位置に突起し、巻回粘着テープ4の外側にテープ縫り出し部8の粘着面側を案内する支持ローラー9を配備し、ガイドローラー3の上方の外周壁面上に突起部10と案内部11を実現し、該突起部10と案内部11に併合する溝孔12を配設した切断刃体13を接着し、さらに該切断刃体13が進退可能に、しかも外れないように複数枚板14をねじり15で取付けたばね16で後方に付帯し、切断刃体13の前方に配設した切断刃17を外周壁壁18より後退させて保持し、巻回終了後は操作部19を前方に押して切断刃17を突出させる。

【0007】(図4)は切断直前の側面図で、切断刃17を突出させたのちケース本体1を傾斜してテープ縫り出し部8の上面に載置した状態を示す。切断刃17の状態よりさらにケース本体1を傾斜させて行う。切断刃17は切断刃体13と同じ材質で一体化されているが、切断刃17を違う材質で形成しても構成せず、さらに切断刃体13の形状、及び切断刃体13をばねで弾力的に保持する構造は他にも容易に考えられるものであり、この実施例に限られるものではない。

【0008】配管作業で使用される非粘着性のシールテープを巻回する場合にも、本発明は応用できるものであり、この際、テープ縫り出し部がケース本体内に巻き戻らないように支持ローラーをガイドローラーにばねで圧接させて、テープ縫り出し部を挟持状態とし、さらに中

巻芯の内側を押圧させる。

【0009】【発明の効果】

(イ) テープ端出端がケース本体から突出しているので、巻回テープ部からテープ端を爪先で剥離する手間を省くことができる。

(ロ) しかも剥離した後、テープ端出端を指先で保持したり歯で噛んで若干離り出し、該テープ端出端を被指で被巻回物に押圧するが、この際の離り出す手間も省くことができる。

(ハ) 巷芯内に指を挿入できるので巻回作業が従来の作業同様に行なうことができる。

(ニ) 巷回終了後、配備した切断刃で容易に切断することができます。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の巻回時の側面図

【図2】(図1)の正面図

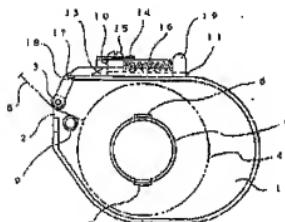
【図3】(図1)の平面図

【図4】切断直前の側面図

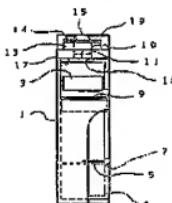
【符号の説明】

- * 1 ケース本体
- 2 開口部
- 3 ガイドローラー
- 4 端回粘着テープ
- 5 中空の軸体
- 6 係止爪
- 7 係止爪
- 8 テープ離り出し部
- 9 支持ローラー
- 10 痒起部
- 11 巷内部
- 12 長孔
- 13 切断刃
- 14 規制板
- 15 わじ
- 16 ばね
- 17 切断刃
- 18 外周壁端
- * 19 操作部

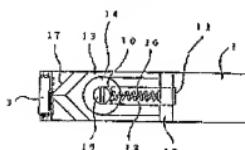
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

